

2017年度 第一回国際活動支援班会議 議事録

日 時：2017年7月1日（土）12時-17時分

場 所：東京外国語大学 本郷サテライト 501 会議室

出席者：渥美、石田、石戸、井上、岩坂、岩下、落合、小林、酒井、末近、鈴木（恵）、中山、ヘーゼルハウス、松永、松本、宮地、山尾、山本、横田、家田（統括班評価者）計22名、特任研究員・押尾 事務補佐・二宮

議事次第 12～13時 第一回国際活動支援班会議

酒井領域代表から、以下の報告事項の説明と提案があった。

① H30年度に実施予定の海外での国際会議について、ロンドン大学東欧研究所を共催相手として交渉を開始したい。

- 総括班評価者の家田先生から、昨年ロンドン大学東欧研究所・ハンガリーのセゲド大学とで若手研究者報告会を共同でやってきた結果、東欧研究所との関係を構築することができた、協力が得られるのではないか、との情報が得られた。特に家田先生が東欧研究所とともに実施している若手研究者育成の試みは、本グローバル関係学の試みとも近似するものがあり、今後協力の可能性を模索することは有意義であろう。
- これまで末近 B02 代表者が SOAS 中東研究所との協力を模索してきており、9月にハキミアン中東研究所長を日本に招聘して相談する予定だが、東欧研究所を絡めることでヨーロッパ・中東、さらには SOAS がらみでアジア、アフリカにも広げる可能性を模索する。
- ただ、ロンドン大学は授業計画上、いつも9月しか時間がとれない。H30年は9月末に九大で WSSF 大会、7月に WOCMES 大会（スペイン）と、領域代表・分担者が関与する国際会議が立て込んでいる。よって、国際会議の9月開催は避けたく、日程の調整が最重要となる。
- 以上の条件をもとに東欧研究所、中東研究所と交渉を行い、もし難しい場合は、国際活動支援班の久保分担者が交渉してきたセルビアの社会科学研究院を共催相手にすることも考慮する。

② 上記国際会議のテーマをどうするかについて。

- 国際会議のテーマをどうするかについて、9月末に SOAS 中東研究所所長が来日する際までに決める必要がある。これについては次回の国際活動支援班会議までに各自考えてくることとした。
- 国際会議の構成をどうするかについて、議論の結果、会議の統一テーマとして設定されたテーマに基づいてスラブ・ユーラシア、中東、アフリカなどから研究者を招聘し3パネル前後を企画するとともに、各計画研究ごとにこれまでの研究進捗状況を示すようなパネルを2-3件、実施することとした。

③ 平成30年1月5-6日にシンガポール国立大学中東研究所と共催で実施する国際会議につき、シンガポール大学との交渉過程について。

- 現時点でのプログラム、基調講演者候補について、酒井より報告があった。
- 特に、宿泊代、国内交通費などについて会場費として会議後シンガポール大学に一括払いする予定

であるため、参加者は航空券のみ各自手配し、シンガポール大学から指定された書式に必要事項を記入して提出する必要があるとの説明がなされた。

以上の報告のあと、引き続き第3回全体研究会を実施した。

そこでは末近 B02 代表者、鈴木恵美分担者 (A01)、横田分担者 (B03)、ヘーゼルハウス公募研究代表者による研究報告が行われた。